

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分  
電話 56-3131(呼)・有線2190(呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時  
電話 56-1076(呼)・有線2251(呼)
- 立科町児童館/  
午前11時40分～午後1時30分  
電話 56-0303(直通)  
有線 8889(直通)

※予約をされる方は児童館または小・中学校の  
教頭先生へご連絡をお願いします。

# スケート5人姉妹に 脈々と伝わる「誠なる努力」

立科町教育相談員 岩上起美男

南佐久郡南相木村は、長野県中部の東端に位置する山あいの村です。

人口約1100人。今冬、この小さな村が歓喜に沸きました。ご存知の方が多いかと存じますが、南相木村に初めてオリンピック選手が誕生したのです。

ソチ冬季オリンピック競技大会

女子スピードスケート1500m・

チームパシユート代表

菊池彩花選手(富士急行)

女子ショートトラック代表

菊池萌水選手(早稲田大学)

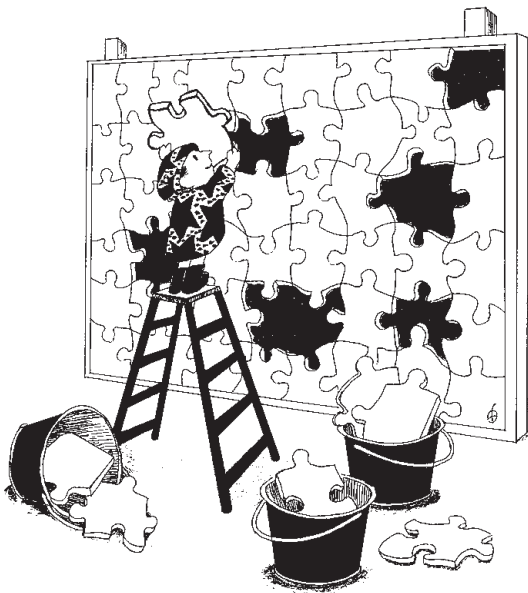
一挙に2人。姉と妹。爽やかアスリート。スケート一家。65歳以上が40%という村民こぞつての熱烈な応援。さらに、姉妹の父親が村長という話題性もあり、テレビや新聞などのメディアが大きく報じました。

家人が、菊池家と20数年来の懇意で、老生も、姉妹の両親をずっと以前から存じ上げていましたので、昨シーズン当初から、姉妹の「ソチ五輪代表決定」の報を心待ちにしていました。

オリンピック選手になるのは、並大抵のことではありません。選手自身の持つて生まれた資質と強靱な精神力、たゆまぬ努力はもとより、良き指導者との出会いやライバルとの切磋琢磨、恵まれた練習環境、家族の支援、それに加えて、人

智をはるかに超えた何か大きな力が、すべて寸分違わず重なり合ったとき、初めてオリンピック選手の座を獲得することができるのでしょうか。

極めて狭き門であり、姉妹2人の「ソチ五輪代表決定」の報道に接したときには、本当に嬉しく、心からの敬意と祝意を覚えました。そして、ぜひとも、菊池さんの両親と姉妹の頑張りを立科町の親御さんにお伝えしよう、と考えました。スケートやオリンピックというスポーツの枠を超えて、菊池家の基軸にある精神が、今現在、子育てに一生懸命取り組んでいる親御さんに、必ずや元氣と励みを分け与えてくれると思われるからです。



菊池家は、5人姉妹です。  
長女・真里亜さんは、中学まではスケ

ート、高校はバスケットボールの選手として活躍しました。妹4人は、真里亜さんの影響で、ごく自然にスケートを始めました。現在、美容師の職に就いています。が、今も妹4人の精神的な支柱です。

次女・彩花さんは、幼い姉の背中を追うように、自宅から1・6kmの立岩湖でスケート靴を履きました。長姉の存在と影響は絶大で、「物心ついたところから、真里亜がライバルで、真里亜に勝つために頑張った。」と語っています。

三女・悠希さんは、ショートトラックのユニバーシアード代表です。右足の骨折と肉離れのために、ソチ五輪選考会出場を断念しましたが、我が道を行く芯の強さで、立教大学入学やアメリカ留学など、自分の道を自ら切り拓いています。

四女・萌水さんは、妹の純礼さんと最後の代表枠を競いました。ソチ五輪ではリザーブに回り、出場はかないませんでしたが、萌水さんは、この体験を無駄にせず、必ずこれからの選手生活の大きな糧にするはず。五女・純礼さんは、今春、

高校を卒業し、実業団のトヨタ自動車でスケートを続けています。高校では、「国体ショートトラック2種目